



第 1208 回例会報告

平成 22 年 1 月 20 日(木) 晴

会長挨拶

会長 長崎政直

グローリーベスさんのこと

今年27歳になるセブ島のグローリーベスさんのことをお話ししたいと思います。先週の例会で、溝口先生から12月のクリスマスに彼女から届いたメールを見せていただきました。そこには大事な報告がなされていました。

彼女のことは皆さん先刻御承知だと思いますが、改めて、ご紹介したいと思います。彼女からの12月の手紙と2007年に届いた手紙を翻訳しました。ご覧になってください。

彼女は、セブ島を去り、フィリピン・ミンダナオ島のダバオにある寄宿舎つき盲学校に勤めることを決めたとありました。その盲学校は、かつて彼女が寄宿して、小学校(エレメンタリースクール)生活をおくったところで、彼女のこれまでの人生、今日の基礎を作った場所です。そこに帰って、同じ目の見えない子供達に、「目が見えなくても、努力をすれば、いつかすばらしい人間になれる」ということを彼女の体験をもとに、教えようと決心したのです。

私は、3回しかセブへ行っていませんが、その都度、彼女に会いました。会ったというより見たというのが正しいでしょう。私は、頑張れという気持ちばかりで、彼女に対して何もしていないのですし、彼女の人生について何も知らなかったから、何のお話も出来ませんでした。

ただ、溝口先生、高林さん、林さん、西沢さん、羽吹さん達が生活費、住居費などの資金援助をして大学を卒業するまでにしたという話は聞いていましたし、さらに溝口先生のお話では、卒業後、働く場所が見つけられないということでした。溝口先生から、これから彼女は どうしたら良いと思うかとたずねられた時には、何かテーマを見つけて、象牙の塔(academic area)の中で、ひたすらその研究をし続け、名を成す。そんな目標で頑張るしかないという程度のことしか思いつきませんでした。彼女は、これまで善意の人々の庇護の下で生きてきた(begging)し、生きつづけるしかないのだろう。その庇護のもとで、フィリピンの中では、比較的文化的な生活が出来、もしかしたら学術の世界で名をなすことによって自立できるかもしれないというような展望です。

3回目の訪問の時、彼女は、養子縁組が出来て、里親さんが、これからは面倒を見てくれる。やっと彼女にも安住の場所が出来たと溝口先生は喜んで話してくれました。実際、溝口先生だって、いつまで生きていれるか解りませんし、こうした援助を続けるのは難しいものだと思います。思っていましたから、溝口先生の安堵の気持ちは良く解りました。

そんな中での、冒頭にお話しました12月の彼女の手紙です。凄いなと思いました。彼女の自立宣言だと私は思います。

8歳の時「盲目のまま、この闇の中で、無益な存在、希望のない人生を過す・・・」と、自問自答し、11歳でダバオの盲学校に寄宿し、努力を重ね、3年で卒業に漕ぎ着け、それも卒業生総代として小学校を卒業し、その後、厳しくつらい高校時代をすごし、大学へ入学。このころから人間の優しさ、人間の中にある善意を深く理解できるようになったのだらうと思います。

「無能で、いつも物乞いをするしかない、自分自身の面倒も見れない、まして十分な収入など得ることも出来ないめくらという人々の印象・観念を消し去り、人生を成功させることでは、盲目であることなど障害ではないということの人々に、また目の見えない人々に知ってもらい、そのために勉学において一層の努力をする」という強い意思、さらに「人生の中で、幾度も落胆し、意気消沈を経験してきた。私は何のために地球上に存在するのかわからなかった。でも今は存在理由がわかる。愛と信頼、それによって育まれた希望、いつの日か、私は価値ある何者かになることができると信じているから、私は生きる価値がある。」という悟り。そして、ダバオの盲学校へ、同じ苦しみ、悩みを持っている子供達の所へ、希

■ニコニコBOX

26名	30,000円
累計	771,000円
目標額	130万円
達成率	59.3%

■今週のことば

前回卓話の宮澤久美子さんよりお礼状が届きました。パルカ・ウォルンゴ!

■出席報告

会員数	35名
出席対象	35名
出席者数	27名
出席率	77.1%
前回修正	82.8%

■次回のプログラム

2月3日
諏訪市長新春卓話
クラブ奉仕委員会



望について話すために、彼らの中に希望を育くむために赴任する。自立の時だと私は思います。これからも様々な困難があるだろうと思いますが、彼女は乗り越えていくと信じています。

そんな彼女の人生に関わられた高林さん、林さん、西沢さん、羽吹さん、溝口先生をうらやましく思いますし、心から拍手を送りたい。そして、このことは私達諏訪湖ロータリークラブの誇り・自慢にして良いことだと思います。

◇幹事報告◇

1. 以下の文書を受領いたしました。

- ①ウィークリー(岡谷 RC)を受領しました。
 - ②3月6日インターシティーミーティング時に開催される【趣味人(シュミット)展覧会】への展示品募集案内が岡谷エコRCから届きました。詳細を後日配布いたします。
 - ③諏訪湖浄化対策連絡協議会と美しい環境づくり諏訪地域推進会議の共催による【2月14日午後7時～8時30分 RAKO 華乃井ホテル】諏訪湖浄化講演会の開催通知を受領致しました。
 - ④下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会設立30周年記念式典【2月19日午後1時下諏訪総合文化センター小ホール】開催の通知を受領しました。
2. 連絡事項
- ①1月のRIレートは1ドル=84円です。RI後期負担金を1月20日に送金致します。
 - ②11月にご逝去なされた元会員の三澤敏郎弁護士追悼会を【1月27日午後6時30分うらかめや】にて開催致します。参加者は事務局までご連絡下さい。

1208 回例会

今井竜吾岡谷市長 新春卓話

クラブ奉仕委員会

1月恒例の新春卓話、2番目の登場は今井竜吾岡谷市長さんです。お話の内容を簡単にまとめました。

共通の話題

○諏訪湖浄化は6市町村が一緒になって力を合わせていく大切な事業であると思う。

○諏訪地区市町村合併は平成16年11月に白紙に戻

てしまい、現在6市町村がまとまって合併を議論するという状況には無い。今は平成の大合併の結果を検証し、学んで、前へ進むための力を蓄える時期ではないか。

○国道20号バイパスは岡谷市があと少しを残すだけとなり、142号線まで早く開通するよう願っているが、諏



訪市民の関心がやや薄いことが気がかりである。防災の面でも必要であり、共に力を合わせてすすめていきたい。

○ごみの焼却場は湖周の諏訪市、岡谷市、下諏訪町で1か所にまとめようということで努力しているところである。

第4次岡谷市総合計画について

将来都市像「みんなが元気に輝くたくましいまち岡谷の実現に向けて様々な施策の推進行っている。

前期基本計画(5ヵ年)重点プロジェクト

○たくましい産業の創造

緊急経済対策は「すぐやる、切れ目なくやる、見えるようにやる」を合言葉に一生懸命やっている(金融支援、受注支援、雇用支援)。一方、市外からの企業誘致や市内企業の流出防止も行っていかななくてはならない。また、観光も大きな産業と捉えその振興のため、岡谷市の良いところの再発見(横河川の桜、鶴嶺公園のつつじ等)とともに、「日本の近代化を支えた製糸業の遺産」として経済産業省から認定された15物件を観光資源として活用したい。

○輝く子供の育成

これから子供を産み、育てる世代の人たちが安心して子供を育成できる環境を整え、それにより人口の減少に歯止めをかけ、生産年齢人口の確保をするため、様々な施策に取り組み、町の活力につなげたい。(乳幼児医療費無料化拡大、各種ワクチン無料化、不登校対策、育児相談支援体制等)

○健やかで安らぎのある暮らしの実現

平成18年度豪雨災害の復旧(総額約120億円)は本年度でほぼ完成させる。その中で行われている天竜川護岸工事(天白橋掛け替え等)により、釜無水門からの放流増加が可能となり、諏訪湖が溢れる率を減らすことが期待できる。また、家庭ごみ等の有料化、プラスチック分別回収、リサイクル事業の拠点拡大によりごみの減量が進み、30%減量が達成できそうである。

○新病院建設への取り組み

平成15年に立ち上げられた病院懇話会により、2病院を統合すべきという結論を受け、統合の歩みが始まったが、市民の皆様のご理解を得て、昨年4月に新しい「岡谷市民病院」という形で集約病院構想がスタートしたところである。現在の病院は築50年で、快適性、利便性が大変劣っているので、今後新病院建設ということに進んでいるところであるが、経営健全化及びこの地域の他の病院あるいは開業医との連携など、役割分担を考えた最終案を市議会に先日提出した。昔の市民会館の土地に平成27年の夏を目途に新病院を建設するというように様々な準備を進めているところである。